

東又小学校

学校だより

令和2年 6月24日(水)

No. 21

東又小 校長 中越あかね

Tel : 0880-24-0006

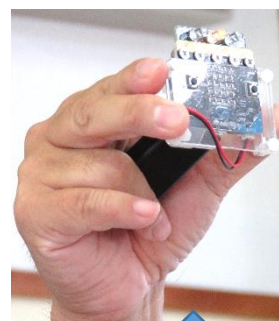
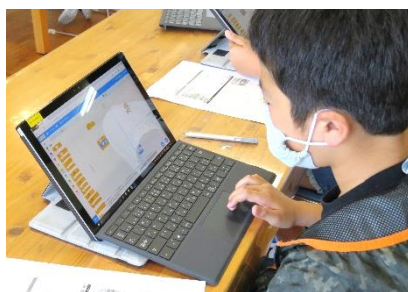
プログラミングの勉強したよ

6月19日に、黒岩小学校の黒瀬忠行校長先生が来てくださり、3年生と5年生がプログラミングの勉強をしました。今年からプログラミングが小学校の授業に入るので、子どもたちへの授業をして頂きました。

いつもいろいろな勉強でタブレットを利用しているので、子どもたちも少し慣れていて、先生の指示に従って上手に動かしていました。今日のお題は『アニメーションを作ろう』です。『スクラッチ』を使ってプログラミングしていきます。キャラクターに動きを付けて行きます。楽しくなるように鳴き声をつけたり、他のキャラクターも足したり名前を付けたり、背景をつけたりと、だんだん楽しくなっていく、1時間終了時にはもっとやりたくて、なかなか終わりがたくなかった子どもたちもいました。

プログラミングは難しそうだけれど、「自動販売機」や「信号機」など身近な物も、プログラミングされて動いています。学校では、この「プログラミング的思考」について学んでいきます。プログラミング技能の習得が目的ではなく、児童が実際にコンピュータを操作しながら学ぶ機会を持つことが大切にされています。楽しく学べるように、年間を通して算数や理科などいろいろな授業の中でもチャレンジしてきます。

家でインターネットにつながる環境があるお家は、『スクラッチ』にチャレンジさせてあげても楽しいですね。



これは、6年の理科の教材の「信号機を作るためのコンピュータ」です。

教師もプログラミングを学びました。

5年生 諏訪先生に来て頂いて防災学習

昨年度複数回来て頂いた、防災学習アドバイザー・コラボレーターの諏訪清二先生（神戸学院大学非常勤講師、兵庫県立大学特任教授、関西国際大学客員研究員等）に、6月23日に来て頂き、今年も5年生が防災学習をして頂きました。



今日は、「避難所ってどんなところ？」という勉強でした。まずは「避難所に入るとできなくなって嫌なことは何だろう？」と考えました。食べたり飲んだり、ゲームや遊びができなくなったりトイレで不自由すること、知らない人の中で着替えをしたり寝たりしなくてはいけなくなるなどでした。考えながら「それは困るなあ」という意見が多かったです。また、「避難所で周りの人のために何ができるか」について考えてみました。避難所で困っていそうな場面を考え、その1つ1つについて自分ができそうなことを考えてみました。子どもたちから出てきたのは下記のようなことでした。子どもなりに考えているなあと感じました。

場面	子どもたちが考えた、できそうなこと
トイレが汚くて嫌がる人がいる	掃除する。流せるようにプールの水を置いておく。 使い方のお願いを紙に書いておいておく。 ⇒「使い方を書いてお腹が立って破って捨てるかもしれない」と言われ、子どもたちの反応は・・・ ⇒お偉いさんをお願いする（笑） ⇒でも、諏訪先生のあちこちでの経験から言うと、お偉いさんが言うよりか、子どもたちが頑張って掃除している様子を見た方が、怒っていた人も考えを変えて一緒に頑張りたいと分かりました。
目の不自由な人がいる	点字で書く。読んであげる。 ⇒点字・・・今から勉強したら、点字で書いてあげることができるようになる。 ⇒字で書いて知らせる・・・綺麗な字で書けるように練習しておく。 漢字も分かるように、今の勉強を頑張る。
外国の人が困っていたら	英語で言う。翻訳機を使う。簡単な日本語で言う。 ⇒英語で説明ができるようになるよう、外国語の勉強を今から頑張っておく。

※そして、自分の得意を生かして、どんなことをしてあげたいか考えました。

得意なこと	それを生かしてどうしてあげたいか
絵や字	絵で分かるように避難所のことをお知らせしてあげる
肩たたき	お年寄りの肩を叩いてあげて話をする
遊ぶこと	小さい子どもとかと外で遊んであげる
人と話す	一人ぼっちのおじいちゃんとかと話をしてあげる
本を読む	絵本や紙芝居の読み聞かせをしてあげる

普段から、家具が倒れないような備えや、非常食の備蓄などの工夫をすることで『地震が起ころうと避難所にいなくてもすむような生活をする』ことを学びました。また、『困っていることがあったら、自分の得意なことで助けられるようにすること』などを学びました。子どもたちが考えた「自分の得意」を活かせたらいいですね。